



# 上尾ロータリークラブ

2022-2023年度R.I.テーマ  
**イマジン**  
ロータリー

第2950回 例会  
2022. 12. 8

会長あいさつ



2022-2023年度 深澤 圭司会長

週報 No.2213

発行 2022年 12月 15日

2022-2023年度  
会長 深澤 圭司  
幹事 門崎 由幸  
副会長 長沼 大策  
副幹事 坂本 忠光  
編集責任者・公共イメージ向上委員会  
委員長 坂 佳三

ビジター

国際ロータリー第2770地区  
地区副幹事  
梶間順子様(浦和中RC)

赤松宏和様(浦和中RC)  
石井佳代様(浦和中RC)

行事予定

- 12月22日 クリスマス例会  
年次総会
- 12月29日 定款の規定により休会
- 1月 5日 新年例会
- 1月12日 卓話「上尾にまちの映画館をつくらう」
- 1月19日 上期中間報告
- 1月26日 卓話 奥川淳一会員

皆さん、こんにちは。本日もご出席いただきありがとうございます。

本日は、浦和中ロータリークラブより卓話者として梶間順子様を、そして同じく浦和中クラブより新会員の赤松宏和様、石井佳代様にメーキャップでお越しいただきました。誠にありがとうございます。

本日は年間4回を予定している会員研修例会の第2回目として、梶間順子様をお招きいたしました。当クラブには、入会5年未満の会員が7名います。最近ではコロナ禍等の関係で、会員研修が出来たのは前年度6月、斎藤年度に1度でした。研修の内容は、高崎ロータリークラブのバスター会長であり地区ガバナーを務めた田中久夫氏の著書「ロータリークラブに入ろう!」を使い、若手メンバーとディスカッションをしながら、ロータリーの5大奉仕や、ロータリアンの3大義務などの知識を身に着けました。会員研修では、尾花会員の邸宅の離れをお借りして、総勢12名で仕出し弁当を食べた記憶があります。

現在は、地区でも会員研修には力を入れて取り組んでいるので、上尾クラブでも来年の6月までには大塚崇行会員クラブ研修リーダーと相談をして研修日程の開催日を決定したいと思っております。

梶間様もご存じとは思いますが大塚バスターガバナーをはじめとして本年度上尾ロータリークラブから地区に10名の会員が外向しています。そのうち2名は部門委員長、1名は委員長を務めています。

上尾ロータリークラブは今年度、創立60周年を迎えます。先輩ロータリアンの方々が築いてきた伝統と歴史のあるクラブです。だからこそ、入会年度の浅い会員にロータリーの知識を身に付けて頂きたいと思っております。

私も会長を仰せつかってからロータリークラブの歴史について勉強する機会が増えました。会長挨拶でも、なるべくロータリークラブの歴史を交えて挨拶をしています。

本日は、梶間様の卓話「私の宝物」をとともに楽しみにしております。本日もどうぞよろしくお願いたします。

本日の卓話を楽しみにしていただきました。心込めて話をさせていただきます。会員研修と会長さんは仰いました、そういう認識はなかったので「私の宝物」というタイトルで卓話をさせていただきます。

私は喋りの仕事をずっとしてきました。アナウンサーという聞こえはいいですが、実はとても過酷で厳しい仕事です。常にメインの方がいて、その方を引き立てる・盛り上げる・支えるような役割で、その支える側の喜びを感じて今までずっと仕事をしてきました。幼少の頃、「朗読が上手ね」「本読みが上手ね」と言われたことを真に受けて、アナウンサーになるんだと子供心に思いました。小・中・高校と放送部のようなことをやって、大学時代に放送研究会に入りました。アナウンサーになりたいというので入ったのですが、当時は女子大生ブームだったので世の中はパブリーで楽しい毎日を過ごしていました。女子大生がとてもモテはやされたので学生時代からいろいろなお仕事をさせていただきました。就職活動では夢だったキー局のアナウンサーを目指しましたが、全部落ちてしまいました。そんな中、地方局では3局合格したのですが、「キー局の就職で採用できなくても、番組ごとに契約するフリーアナウンサー・タレントになりませんか」というお誘いをいただき、生活圏が関東にあったので、フリーで頑張るという選択をしました。当時はバブル時代だったので、オーディションを受けるたびに合格したくさん仕事がありました。恵まれていた時代で、日本テレビ、フジテレビ、テレビ朝日の朝のワイドショーのレポーターとして番組のコーナー司会をさせていただきました。たいへん過酷な日々で、朝2時半には迎車があります。午前の本番の後、翌日のリハーサルを午前11時に終え、一度帰宅して寝て、その後、深夜番組のアシスタントをして、少し寝てまた仕事というスケジュールを繰り返しました。よく頑張れたなあと思返しますが、それでも楽しい毎日でした。いろいろな方とも会うことができ、なによりも念願だった喋ることでお金をもらえる喜びに満たされ、こんな素晴らしい日々が永遠に続くも

「私の宝物」

地区副幹事 梶間順子様 (浦和中RC)



本日の卓話を楽しみにしていただきました。心込めて話をさせていただきます。会員研修と会長さんは仰いました、そういう認識はなかったので「私の宝物」というタイトルで卓話をさせていただきます。

私は喋りの仕事をずっとしてきました。アナウンサーという聞こえはいいですが、実はとても過酷で厳しい仕事です。常にメインの方がいて、その方を引き立てる・盛り上げる・支えるような役割で、その支える側の喜びを感じて今までずっと仕事をしてきました。幼少の頃、「朗読が上手ね」「本読みが上手ね」と言われたことを真に受けて、アナウンサーになるんだと子供心に思いました。小・中・高校と放送部のようなことをやって、大学時代に放送研究会に入りました。アナウンサーになりたいというので入ったのですが、当時は女子大生ブームだったので世の中はパブリーで楽しい毎日を過ごしていました。女子大生がとてもモテはやされたので学生時代からいろいろなお仕事をさせていただきました。就職活動では夢だったキー局のアナウンサーを目指しましたが、全部落ちてしまいました。そんな中、地方局では3局合格したのですが、「キー局の就職で採用できなくても、番組ごとに契約するフリーアナウンサー・タレントになりませんか」というお誘いをいただき、生活圏が関東にあったので、フリーで頑張るという選択をしました。当時はバブル時代だったので、オーディションを受けるたびに合格したくさん仕事がありました。恵まれていた時代で、日本テレビ、フジテレビ、テレビ朝日の朝のワイドショーのレポーターとして番組のコーナー司会をさせていただきました。たいへん過酷な日々で、朝2時半には迎車があります。午前の本番の後、翌日のリハーサルを午前11時に終え、一度帰宅して寝て、その後、深夜番組のアシスタントをして、少し寝てまた仕事というスケジュールを繰り返しました。よく頑張れたなあと思返しますが、それでも楽しい毎日でした。いろいろな方とも会うことができ、なによりも念願だった喋ることでお金をもらえる喜びに満たされ、こんな素晴らしい日々が永遠に続くも

幹事報告

門崎 由幸 幹事

- ◇12月のロータリーレートは1ドル=138円です。
- ◇青森県津軽地方豪雨災害支援金のお礼が届いています。
- ◇地区から2023年メルボルン国際大会ガバナーナイトの案内が届いています。
- ◇地区から古い婚活パーティの案内が届いています。12月18日開催、対象者はご参加のほどお願いいたします。
- ◇インターアクト協議会が来年2月5日(日)に開催されると案内が届いています。

委員長報告

米山記念奨学委員会 宇多村海児委員長

本日、大塚崇行会員からたくさんご寄付をいただきました。ありがとうございました。

例会主題

講師紹介

大木 保司 会員

本日の卓話者、梶間順子様は浦和中ロータリークラブに所属しています。1989年に入会され、会長幹事も経験されていて、地区では2010-11年度：会員増強部門委員長、2016-17年度：広報部門委員長、2018-19年度：会員増強維持部門委員長、2019-20年度：公共イメージ向上部門委員長を歴任し、2020-21・2021-22年度はロータリーの友地区代表委員も務めたことがあります。第1グループのガバナー補佐幹事も経験していて、現在は地区副幹事で国際奉仕部門を担当しています。2017年からはRLIディスカッションリーダー、2020年からは米山記念奨学学生選考委員にもなり、ほぼロータリーのことを網羅している方です。本日は経験豊富な梶間さんの卓話を拝聴させていただければと思います。よろしくお願いたします。



のだと思いがついていた。

ところがそんなに世の中は甘くありません。局アナと違ってフリーの場合はすべてオーディションです。採用されなければそこで仕事は終わります。当時から、「女性はクリスマスケーキ」と言われていました。24・25になるとオファーがなくなります。オーディションに通らなくなってしまいました。こんなはずじゃなかったと思って周りを見渡すと、同僚はみんな結婚したり、仕事を変えていました。私はこの先どうしようか考え、「なんでもやります」というスタンスに変え、地方でもどこでも行きますと路線を変更したら、日本全国のテレビ局を巡ることになりました。当時は地方局でも予算がありました。なのでアナウンサーやレポーターを東京から呼ぶ余裕があり、キー局でいろいろな経験を積んだため、地方から呼んで頂く機会がとても増えました。沖縄以外ほぼすべての都道府県を巡りました。番組ごとの契約で、2泊3日から1週間、1カ月、3カ月などさまざまな仕事をしました。ここからが私の本当のアナウンサー人生の始まりだと思っています。たくさんの方と出逢って、地方の美味しい食べ物をいただき、人情にもたくさん触れ合いました。そんな生活をしていて喋ることの楽しさ、生きていることの意味をその何年かで感じる事ができました。

長年の喋りの人生の中で忘れられないのがトークショーで有名人のサポートをする仕事です。私が専属でトークショーのアシスタントをしたのは故・朝丘雪路さんとデヴィ夫人という大御所です。朝丘さんに関しては25年間ずっと専属司会というところで番組やイベントすべてに同行させていただきました。朝丘さんは天然な方で司会者泣かせの一面があり、話し出すと止まらなくなる時があります。番組やイベントには、クライアントやスポンサーなどさまざまな制約があり、シナリオ通りに進めなければならないところを突っ走り、怒られるのは専属アシスタントの私でした。こんな無理と辞めたいと思ったことがありましたが、1年〜2年経つと朝丘さんの性格がわかり、尊敬するところがたくさんあると徐々にわかってきました。朝丘さんはどんな仕事でも台本を持ち歩かれません。というところは、見えないところでどれほどの努力をして本番に臨むか、それを私は本当に感心し尊敬しました。アナウンサーやタレントはどうしても台本に頼ってしまいますが、朝丘さんは台本を見ずにセリフひとつひとつを話し

した。なんというプロフェッショナルな方だろうと思いました。

そんな朝丘さんが病気になりました。亡くなる3年くらい前に大病をされ仕事ができなくなるとい知らせを頂きました。年間10本くらいのお仕事を一緒にさせていただいていたのが、これでもうお会いすることはないのだと思っていたところ、病気になって1年後、マネージャーさんから電話をいただきました。「悪いけど、打ち合わせだけしてほしい」というお願いでした。なぜそんなオファーがきたかという、晩年、朝丘さんは認知症を患い、昨日のことも、朝食食べた食事さえも忘れてしまうようになっていたのに、カレンダーにつけた日付に向け、「この日は仕事があるから、打合せはいつするの?」と毎日毎日忘れずに仰ったからだそうです。そこでご家族は、「もしかして打ち合わせをして仕事の話しをしたら、何か起きるかもしれない、思い出し病状が変わるかもしれない」と考え、私におファーをしたそうです。打ち合わせの会場に行くと、そこには活躍していた頃と同じように美しく輝き明るい彼女がいました。世間話の後、朝丘さんは「来月のイベントで久しぶりに歌を歌おうと思うの。その時、あなたが素敵と言ってくれた白いドレスを着るから、あなたは薄いブルーの衣裳を着てきてね。歌の間にはコメントを入れてほしいの。そのコメントはこれ」と、認知症なのだろうかと思えるほど普段と変わらない打ち合わせをしました。そして朝丘さんは「じゃあ、あなたが素敵にね」と握手をして、私の背中をポンポンと叩いて「背筋を伸ばしてがんばりましょう」と仰ってくださいました。これが朝丘さんと会った最後でした。当然、イベントの本番などありませんでした。

背中をポンポンと叩いてくださったのは、私が若い頃、まだ緊張して下を向いて本番に臨んでいたのを、朝丘さんは「しっかりしなさいよ。背筋を伸ばしましょう」と声をかけてくださったことがあったんですね。何十年も前の声掛けを今になって掛けていただけでとても嬉しくなりました。最後に掛けてくださった「がんばりましょう」の声が、私はこれからの人生も、今までと同じように前を向いて背筋を伸ばしてがんばっていかねばならないんだという励ましの言葉として受け取っています。私はこの言葉を1つめの宝物として心の中に刻み込みました。

2つめの宝物についてです。私事になってしまいますがロータリークラブに入って22年経ちます。入会3年目頃、辞めようと思って例会に出席しなくなりました。欠席が続く3カ月経つ頃、私の手元に亡くなった母からの手紙が120通届きました。

私は4歳の頃、実の母を病気で亡くしています。当時、母が文通をしていた友人が、数十年後、その母が大病をして亡くなったから家族にこの手紙が捨てられてしまうかもしれない、だったらこの文通の束をお嬢さんに届けてあげたいと思ったそうです。文通をしたのは昔のことだったので音信不通になった母の家族を探すのは難しかったのですが、鴻巣にお住いのこの方は近所のロータリアンを頼り、人探しを始めたそうです。「たぶん家族の誰かがロータリーに入っているかもしれない」との推測でロータリアンに声をかけ、鴻巣のロータリアンは地区のあちこちで人探しをして、蔵のロータリアンに行きつき、同窓会で探したら浦和中クラブの創立会長に辿り着き、母の娘である私に行き着いたのです。

私はどうだったかという、父が再婚し、実の母を忘れるようにして成人し結婚して娘が生まれました。娘が4歳になった時に、もしもこの子を残して私がいなくなったとしたらどんな気持ちだろうと思いを馳せ、母がどんな思いで死んでいったのだろうか、自分が子供を産んで初めて気づきました。再婚して新しい母がいるので、一度忘れようとした実の母ですが、その時から実の母のことを知らなければならぬ、知ろうと心に誓いました。祖母や叔母のもとに行き、いろいろな話を聞きましたが、私が求めているような母の姿を聞くことはできません。祖母が「ミヨコちゃんだったらお母さんの親友だから、いろいろわかるのにね」と言っていたのですが、そのミヨコちゃんが、手紙を届けてくれた親友だったのです。120通の手紙の中には、母の

青春時代がたくさん詰まっていた。その手紙の締めくくりとしてこんな一文がありました。私に宛てたメッセージでした。「私はこの娘に人生をたっぷりと豊かに生きてほしい。できるなら、自分のことだけでなく、他人のことを考えて行動できる、そんな思いやりのある人間に育ってほしい」と。私はそれを読んで、少しはロータリーに入って他人のために何か行動するということができたのではないかなと思いました。もしも私がロータリークラブに入会していなければ、この手紙が届くことはなかったと思います。ロータリアンの方々が繋いだ善意の気持ちと、アンテナを立ててくださった浦和中クラブの創立会長のおかげで手紙の束が届いたわけです。私はクラブ創立会長に感謝をしても感謝しきれません。どのようにお礼をしたらいいのですかと尋ねたら、創立会長は「礼なんていらねえよ。何もいらぬ。その代わり1つだけ、一生ロータリアンでいな。ロータリーは辞めな」と言われました。なので私はどんなことがあってもロータリーを辞めるわけにはいかなくなってしまいました。クラブの創立会長も4年前に亡くなってしまったので、その言葉が遺言となってしまいました。

たくさん宝物を私は手にして、これからも一生懸命がんばっていかないといけないと思います。本日はありがとうございます。



スマイル 梶間様、卓話いただきありがとうございました!

浦和中ロータリークラブ 梶間順子様/赤松宏和様/石井佳代様  
深澤会長/門崎幹事/長沼副会長/坂本副幹事/大塚信郎会員/  
大木保司会員/大塚崇行会員/島村会員/齋藤博重会員/藤村会員/  
齋藤哲雄会員/樋口会員/宇多村会員/齋藤修弘会員/小田切会員/  
大木崇寛会員/関口良康会員/山崎会員

出席率	
会員数	35
出席免除	7
出席対象者	28
出席者数	18
64.29%	

例会日 毎週木曜日 12:30~13:30 事務所 〒362-0035 埼玉県上尾市仲町1-8-31 新和エクセルビル303

例会場 上尾東武ホテル3F(コミュニティホール) TEL 048-775-7788 / FAX 048-776-9799

